

2018年2月読書会宿題

1. 死生観・・・死とは、睡眠、臨死体験、脳死、墓、先祖供養
2. 人間観・・・身体観、靈魂観、潜在意識と顕在意識、心
3. 人生観・・・靈的成長、利他愛の実践、苦難、靈主肉従、

1. 死生観

死とは第二の誕生であること、生の自然な過程の一つであること、人類の進化における不可欠の自然現象として神が用意したものであることを理解していただきたいのです。死ぬということは生命を失うことではなく別の生命を得ることなのです。

『シルバー・バーチの靈訓(3)』44 ページ 14 行目から 45 ページ 1 行目まで

(呼吸が止まった直後にどんなことが起きるのですか。)

魂に意識のある場合(高級靈)は、エーテル体が肉体から抜け出るのがわかります。そして抜け出ると目が開きます。まわりに自分を迎えに来てくれた人たちが見えます。そしてすぐそのまま新しい生活が始まります。魂に意識がない場合は看護に来た靈に助けられて適当な場所――病院なり休息所なり――に連れて行かれ、そこで新しい環境に慣れるまで看護されます。

『シルバー・バーチの靈訓(4)』145 ページ 4 行目から 9 行目まで

死は生命に対して何の力も及ぼしえません。死は生命に対して何の手出しもできません。死は生命を滅ぼすことはできません。物的なものは所詮、靈的なものには敵わないのです。もしあなたが靈眼をもって眺めることができたなら、もし靈耳をもって聞くことができたなら、もしも肉体の奥にある魂が靈界の靈妙なバイブレーションを感じ取ることができたなら、肉体という牢獄からの解放をよろこんでいる、自由に意気揚々として、うれしさいっぱいの甦った靈をご覧になることができるでしょう。

『シルバー・バーチの靈訓(5)』37 ページ 6 行目から 11 行目まで

地上の人間は皆いつかは死なねばなりません。摂理によって、永遠に地上に生き続けることはできないことになっているのです。ですから、肉体はその機能を果たし終わると、靈的身体とそれを動かしている魂とから切り離されることは避けられないのです。かくして過渡的現象が終了すると、魂はまた永遠の巡礼の旅の次の段階へと進んでいくこととなります。

『シルバー・バーチの靈訓(8)』73 ページ 1 行目から 5 行目まで

死とは物的身体から脱出して靈的身体をまとう過程のことです。少しも苦痛を伴いません。ただ、病気または何らかの異状による死にはいろいろと反応が伴うことがあります。それがもし簡単にいかない場合には靈界の医師が付き添います。そして、先に他界している縁者たちがその人の“玉の緒”が自然に切れて肉体との分離がスムーズに行われるように世話をしているのを、すぐそばに付き添って援助します。

次に考慮しなければならないのは意識の回復の問題ですが、これは新参者各自の真理の理解度に掛かっています。死後にも生活があるという事実をまったく知らない場合、あるいは間違った来世観が染み込んでいて理解力の芽生えに時間を要する場合は、睡眠に似た休息の過程を経ることになります。

その状態は自覚が自然に芽生えるまで続きます。長くかかる場合もあれば短い場合もあります。人によって異なります。知識をたずさえた人には問題はありません。物質の世界から靈の世界へすんなりと入り、環境への順応もスピーディです。意識が回復した一瞬は歓喜の一瞬となります。なぜなら、先に他界している縁のある人たちが迎えに来てくれているからです。『シルバー・バーチの靈訓 (8)』103 ページ 2 行目から最後の行まで

実際には人間のすべてが睡眠中にこちらの世界へ来ております。それは神の配慮の一つで、いよいよこちらへ来た時に環境の違いによってショックを受けないように、未来の環境に慣れさせておくのです。ちょうど子供時代を過した土地へ来るとその頃の思い出が甦ってくるように、睡眠中に訪れていた環境の記憶が甦ってきます。

『シルバー・バーチの靈訓 (12)』38 ページ 10 行目から 13 行目まで

実は今でもあなたがたは毎夜のように靈の世界を訪れているのです。ただ思い出せないだけです。それは、死んでこちらへ来た時のための準備なのです。その準備なしにいきなり来るとショックを受けるからです。来てみると、一度来たことがあるのを思い出します。肉体の束縛から解放されると、睡眠中に垣間見ていたものを全意識をもって見る事が出来ます。その時すべての記憶がよみがえります。

『シルバー・バーチの靈訓(4)』135 ページ 6 行目から 10 行目まで

(睡眠中に靈界を訪れるのは死後の準備が唯一の目的ですか。)

仕事をしに来る人も中にはおります。それだけの能力をもった人がいるわけです。しかし大抵は死後の準備のためです。物質界で体験を積んだあと靈界でやらなければならない仕事の準備のために、睡眠中にあちこちへ連れて行かれます。そういう準備なしに、いきなりこちらへ来るとショックが大きくて、回復に長い時間がかかります。地上時代に靈的知識をあらかじめ知っておくと、こちらへ来てからトクをすると言うのはその辺に理由があるわけです。

『シルバー・バーチの靈訓(4)』138 ページ 1 行目から 7 行目まで

みなさんは毎晩その肉体をあとにして別の世界へ行きます。訪れた世界での体験は二種類に分けることができます。一つは教育を目的としたもので、もう一つは純粹に娯楽を目的としたものです。教育的体験では、いずれ訪れる霊界生活で使用する霊的身体について教わります。娯楽を目的とした体験の場合は、たとえば霊界で催されているいろいろな会場を訪れます。

『シルバー・バーチの霊訓 (7)』152 ページ 7 行目から 11 行目まで

2. 人間観

あなた方は物質をまとった存在です。身を物質の世界に置いておられます。それはそれなりに果たすべき義務があります。衣服を着なければなりません。家がなくてはなりません。食べるものがが必要です。身体の手入れをしないでなりません。身体は、要請される仕事を果たすために必要なものをすべて確保しなければなりません。物的身体の存在価値は基本的には宝の道具であることです。霊なくしては身体が存在はありません。そのことを知っている人が実に少ないのです。身体が存在できるのはまず第一に霊が存在するからです。霊が引っ込めば身体は崩壊し、分解し、そして死滅します。

『シルバー・バーチの霊訓(6)』200 ページ 6 行目から 12 行目まで

私はけっして肉体ならびにその必要条件をおろそかにしてよろしいと言っているのではありません。肉体は霊の大切な道具ではありませんか。肉体的本性が要求するものを無視するようになるとお願いしているのではありません。私は一人でも多くの人間に正しい視野をもっていただけ、自分自身の本当の姿を見つめるようになっていただきたいのです。まだ自分というものを肉体だけの存在、あるいは、せいぜい霊を具えた肉体だと思い込んでいる人が多すぎます。本当は肉体を具えた霊的存在なのです。それとこれとは大違いです。

『シルバー・バーチの霊訓(6)』204 ページ 4 行目から 9 行目まで

肉体は霊がその機能を行使できるように出来あがっております。その形体としての存在はホンの一時的なものです。用事が済めば崩壊してしまいます。が、その誕生の時に宿った霊、これが大事なのです。その辺の理解ができた時こそあなたの神性が目を覚ましたこととなります。肉体的束縛を突き破ったのです。魂の芽が出はじめたのです。ようやく暗闇の世界から光明の世界へと出てきたのです。あとは、あなたの手入れ次第で美しさと豊かさを増していくこととなります。

『シルバー・バーチの霊訓 (12)』197 ページ 2 行目から 7 行目まで

霊は生命そのものであり、生命は霊そのものです。霊のないところに生命はありません。物質は殻にすぎません。霊という実在によって投影されたカゲにすぎません。物質それ自体には

存在はないのです。あなたが存在し、呼吸し、動き、考え、判断し、反省し、要約し、決断し、熟考することができるのは、あなたが霊であるからこそです。霊があなたの身体を動かしているのです。霊が離れたら最後、その身体は崩壊して元の土くれに戻ってしまいます。

『シルバー・バーチの霊訓 (12)』198 ページ 10 行目から 199 ページ 2 行目まで

人間生活には三つの側面があります。まず第一に霊であり、次に精神であり、そして肉体です。人間としての個性を存分に発揮するようになるのはこの三つの側面の存在を認識し、うまく調和させるようになった時です。物的世界にのみ意識を奪われ、物的感覚にしか反応を示さぬ人間は、精神的ならびに霊的な面においてのみ獲得される、より大きい、より深い、より美しい喜びを味わうことはできません。反対に精神的なもの、霊的なものばかりの瞑想的な生活から生まれる内的満足のみを求め、この世の人間としての責務をおろそかにする人間は、一種の利己主義者です。

『シルバー・バーチの霊訓 (12)』210 ページ 11 行目から 211 ページ 4 行目まで

3. 人生観

真理は永遠不滅です。しかも無限の側面があります。なのに人間は自分が手にした一側面をもって真理の全体であると思い込みます。そこから誤りが始まります。全体などではありません。進化するにつれて理解力が増し、他の側面を受け入れる用意ができるのです。生命活動とは断え間なく広がりゆく永遠の開発過程のことです。真理の探求は無限に続きます。あなた方はそちらの地上において、私はこちらの世界において、真理の公道を旅する巡礼の仲間であり、他の者より少し先を歩んでいる者もいますが、究極のゴールにたどり着いた者は一人もいません。

『シルバー・バーチの霊訓 (6)』191 ページ 3 行目から 9 行目まで

霊は物質の限界によって牛耳られてばかりはいません。全生命の原動力であり全存在の大始源である霊は、あなたの地上生活において必要なものをすべて供給してくれます。その地上生活の目的はきわめて簡単なことです。死後に待ちうける次の生活に備えて、本来のあなたであるところの霊性を強固にするのです。身支度を整えるのです。開発するのです。となれば、良いことも悪いことも、明るいことも暗いことも、長所も短所も、愛も憎しみも、健康も病気も、その他ありとあらゆることがあなたの霊性の成長の糧となるのです。(中略)

ところが、残念ながら敵があります---取越苦勞、心配、不安という大敵です。それが波長を乱し、せつかくの霊的援助を妨げるのです。霊は平静さと自信と受容力の中ではじめて伸び伸びと成長します。日々の生活に要請されるものすべてが供給されます。物的必需品のすべてが揃います。

『シルバー・バーチの霊訓 (6)』201 ページ最後の行から 202 ページ最後の行まで

自我の開発――これが人間としてもっとも大切な目的です。それがこうして私たちが霊界から地上へ戻ってくる目的でもあるのです。すなわち人間に自己開発の方法、言いかえれば靈的革新の方法をお教えすることです。内在する神の恩寵を味わい、平和と調和と協調と友愛の中で生きるにはそれしかないからです。

『シルバー・バーチの靈訓 (8)』21 ページ 11 行目から 14 行目まで

地上の人類はまだ痛みと苦しみ、困難と苦難の意義を理解しておりません。が、そうしたもののすべてが靈的進化の道程で大切な役割を果たしているのです。過去を振り返ってごらん下さい。往々にして最大の危機に直面した時、最大の疑問に遭遇した時、人生でもっとも暗かった時期がより大きな悟りへの踏み台になっていることを発見されるはずです。いつも日向で暮らし、不幸も心配も悩みもなく、困難が生じても自動的に解決されてあなたに何の影響も及ぼさず、通る道に石ころ一つ転がっておらず、征服すべきものが何一つないようでは、あなたは少しも進歩しません。向上進化は困難と正面から取り組み、それを一つひとつ克服していく中にこそ得られるのです。

『シルバー・バーチの靈訓 (4)』41 ページ 4 行目から 11 行目まで

いかなる人間にもかならず試練と困難、すなわち人生の悩みが訪れます。いつも日向ばかりを歩いて蔭を知らないという人は一人もいません。その人生の難問がどの程度まであなたに影響を及ぼすかは、あなたの靈的進化の程度に掛かっています。ある人には何でもないのであるが、あなたには大変なことである場合があります。反対に、ある人には大変な問題に思えることが、あなたには些細なことに思えることもあります。各自が自分なりの運命を築いていくのです。

『シルバー・バーチの靈訓 (2)』71 ページ 10 行目から 15 行目まで

人間は苦しい状態に陥ると、それまでに獲得した知識、入手した証拠をあらためて吟味しなおすものです。本当に真実なのだろうか、本当にこれでいいのだろうか、と自問します。しかし、これまで何度も申し上げてきたことですが、ここでまた言わせていただきます。万事がうまく行っている時に信念をもつことは容易です。が、信念が信念としての価値をもつのは暗闇が太陽をさえぎった時です。が、それはあくまでも雲にすぎません。永遠にさえぎり続けるものではありません。

『シルバー・バーチの靈訓 (6)』144 ページ 11 行目から 145 ページ 1 行目まで

人生において、自分が役に立つということほど大きな喜びはありません。どこを見ても闇ばかりで、数え切れないほどの人々が道を見失い、悩み、苦しみ、悲しみに打ちひしがれ、朝、目を覚ます度に今日はどうなるのだろうかという不安と恐怖におののきながら生きている世の中

にあって、たった一人でも心の平静を見出し、自分が決して一人ぼっちの見捨てられた存在ではなく、無限の愛の手に囲まれているという霊的事実に目覚めさせることができれば、これはもう立派な仕事というべきです。他のいかなる仕事にも優る大切な仕事を成し遂げたこととなります。

『シルバー・バーチの霊訓(1)』106 ページ 1 行目から 7 行目まで

私たちが説く全教説の基調は“人のために己れを役立てる”という言葉に尽きます。あなた方の世界のガンとも言うべき利己主義に対して私たちは永遠の宣戦を布告します。戦争を生み、流血を呼び、混乱を招き、破壊へ陥れる、かの物質万能主義を一掃しようと心を砕いております。

『シルバー・バーチの霊訓(2)』(近藤千雄訳)24 ページ 2 行目から 5 行目から

私たちの説く福音は互助と協調と寛容と同情の精神です。お互いがお互いのために良くし合う。持てる者が持たざる者、足らざる者に分け与える。真理を悟った者が暗闇にいる者を啓発するために真理という名の財産を譲る。そうあってほしいのです。

『シルバー・バーチの霊訓(2)』24 ページ 6 行目から 8 行目まで

私たちの仕事は、その大きな世界、霊の宝庫へ目を向けさせ、暗闇と無知の中で道を見失っている数知れない人々に、霊的真理を知ることによって得られる導きと慰めと確信をもたらしてあげることです。それとても実は私の望んでいるところの一部にすぎません。肉親を失った人を慰めてあげること、悲しみに暮れる人の涙を拭いてあげること、こうしたことは実に大切なことです。確かにこれも私たちの使命の一部ではあります。しかしもっと大切なことは、そうした体験を通じて自分とは何か、本当の自分とは何なのか、何のためにこの地球という惑星に生を享けたのか、より一層の向上のためには何を為すべきか——こうしたことについての正しい認識を得させてあげることです。それが一ばん大切なことです。

『シルバー・バーチの霊訓(2)』173 ページ 7 行目から 14 行目まで

より開けたこちらの世界で知り得た価値ある知識をこうしてお授けするのは、代ってこんどはあなた方が、それを知らずにいる人々へ伝えていただきたいと思うからです。宇宙はそういう仕組みになっているのです。実に簡単なことなのです。私たちは自分自身のことは何も求めません。お礼の言葉もお世辞もいりません。崇めてくださっても困ります。私たちはただの使節団、神の代理人にすぎません。自分ではその使命にふさわしいとは思えないのですが、その依頼を受けた以上お引受けし、力のかぎりその遂行に努力しているところなのです。

『シルバー・バーチの霊訓(6)』207 ページ 9 行目から 14 行目まで